

久山中便り

久山中学校
令和7年11月25日発行
第56号

命の大切さを実感

防災講演会

21日(金)に、宮城県から講師をお招きして防災講演会を開催しました。

この講演会は、PTAからの要請があり実現したものです。お招きした講師は、東日本震災の際、卒業式直後に津波に襲われ、学校が全壊した中学校の当時の校長先生です。

22日(土)に町の道徳講演会でもお話しされますが、その前に、中学生を対象にして講演していただけないかと相談したところ、快くお引き受けいただきました。

実は、この講師の先生とは、以前からの知り合いで、震災後に、講師の先生の学校を訪問させていただいたり、被災地を案内してもらったりしたことがあります。

特に、先生の著書「たくましく生きよ。」は、被災した時の様子、生存確認の難しさ、何もないところから学習へ向かう努力、そして、生徒たちのたくましく成長する姿などが描かれています。

そんな、先生のお話を直接聞くことが出来る機会でした。

今回は、三年生の感想を紹介します。

・東日本大震災の話聞いたことが、あまりなくて、知らないところで同じ年の子がこんなにつらい経験をして今も生きていることを知って、自分ごととして考えることができました。そして、私もたくましく生きていきたいと思いました。

・私達が当たり前に使っているもの、思い出、家族や友達は当たり前じゃなくて、一つ一つがとても大切に尊いということを学びました。

・私は東日本大震災の直前に生まれました。母から当時の地震の恐ろしさを聞いていました。今回のお話で、自分が想像していたよりもひどい被害の状況を知り、自分の認識の甘さを痛感しました。被災した中学生のたくましい姿が印象に残りました。

・今まで私の中では、震災がなんとなくのイメージで、あまり被災者の方とも話をさせていたいただいた経験がありませんでした。先生の講演は震災に対する正義感や、行動力をひしひしと感じることができました。今回の講演から、家族と避難経路の確認をしておこうと思えました。とても心に響きました。

・災害で家族を失った人や大切なものを失った人が多くいて、お話を聞くだけでも胸が痛くなるようなことばかりでした。災害の恐ろしさを改めて考え、災害でなにかを失った人がいるということを忘れずに毎日生活してい

きたいです。

・私は「心の被災」という言葉が心に残りました。被災者の気持ちを全てわかることはできませんが、自分たちができることを少しでも知っていききたいです。

・私は、被災した姉弟の話聞いて、自分もその子達のような立場だと、とても辛いと思いました。

そして、辛いことを出さないお姉ちゃんはずごいと思いました。想像もつかない話で、すべて共感できるわけではないけど知ることはできると思ったので、被災者の話をもっとききたいとおもいました。

次の日、町の講演会には、おうちのの方に「是非、聞きに行ってみて」と勧められていらっしやった保護者の方もあったようです。

その話を聞いて、講師の先生は、「とてもありがたい。よく伝わっていたと思うと嬉しくなります。」と話されていました。

災害は、いつ訪れるかわかりません。だからこそ、備えと訓練が求められます。

29日(土)は、町の避難訓練です。多くの中学生とその保護者の皆さんが参加されることを願っています。

